

いしかれん だより

第57号

2016.4

石川県精神障害者
家族会連合会

〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目6番地

石川県こころの健康センター内

TEL(076) 238-5761

FAX(076) 238-5762



「三本の矢」の一つは、精神の福祉医療

石家連 会長 中谷 賢宗

日頃より、精神に障がいのある人と私たち家族のために、温かい支援とご理解を賜り深く感謝申し上げます。

さて、平成27年は障害者権利条約締約国、日本の第1回政府報告の取りまとめ、障害者差別解消法の対応要領・対応指針の作成および総合支援法の3年後見直しの時でありました。また、全国と同時に県内においては交通運賃割引国会請願署名活動が各界のご協力のもとに繰り広げられまして、約6,000名の賛同が得られました。本年5月26日には、衆議院議長、参議院議長のもとに届けられます。JR並びに県内北陸鉄道石川線・浅野川線および長距離バスの運賃割引が1日も早く実現することを願ってやみません。

一方、新年度の課題は何でありましょうか。4月からはいよいよ障害者差別解消法と改正障害者雇用促進法が施行となります。しかし、県内各市各町の差別解消法の障害者窓口の設置「〇〇市（町）障害者差別解消支援地域協議会」はまだこれからです。合理的配慮、適正なる便宜の供与、そして措置の事例を蓄積していかななくてはなりません。

私たちはまた他県の差別禁止条例づくりに関心を向けなければなりません。すでに15の

自治体で条例が制定されているなかで、長崎県や京都府、お隣の富山県における条例は、差別解消法をバージョンアップして、上乗せ（法律を上回る規定）と横出し（法律にない規定）を盛り込んでいます。また、新潟県においては数年前から検討委員会が設けられ、本年4月1日に施行されます。

”みんなねっと”は、新年度より、精神保健福祉法改正3年後見直しの審議を柱として、JR運賃割引、医療費助成、家族支援、ピアサポーターに家族のピアサポーターを加えること、精神障害者相談員制度の創設、家賃債務保証制度、医療保護入院における家族同意要件の問題、障害年金、心の健康教室等をあげています。そして、石家連においては、障害者医療費助成における他の2障害との格差是正が、喫緊の課題であります。

本人と家族が住み慣れた地域で、社会から本人を含めた家族全体が支援を受けながら生きていける社会をめざして、ともに進んでまいりたいと思います。絶大なるご協力を心よりお願い申し上げます。

4月より 障害者差別解消法が施行されます

この法律は、国、県、市町及び民間事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置などが定められています。障害を理由とする差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会を目指しましょう。



[差別を解消するための措置]



不当な差別的取扱いの禁止

国・県・市町	法的
民間事業者	義務

合理的配慮の提供

国・県・市町	法的義務
民間事業者	努力義務

○不当な差別的取扱いとは…

障害のある人に対して、正当な理由なく、障害を理由として、サービスや各種機会の提供を拒否したり、提供に当たって条件を付けたりするような行為を言います。

(例)

- ・ 障害を理由として、窓口対応を拒否する、順番を遅くする。書面や資料を渡さない。
- ・ 障害を理由として、説明会などへの出席を拒む、必要のない付き添い者の同行など、過剰に条件を求める。

○合理的配慮とは…

障害のある人から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合に、負担になり過ぎない範囲で、合理的配慮を提供することとされています。

(例)

- ・ 段差がある場合に、車椅子利用者にキャスター上げ等の補助をする。
- ・ 筆談、読み上げ、手話などを用いる。

○県における相談窓口

石川県障害者権利擁護サポートデスク：金沢市鞍月 1-1
TEL:076-225-1464 FAX:076-225-1429

(石川県健康福祉部障害保健福祉課資料を参照)

○街頭キャンペーン

石川県は3月24日この法律が4月から施行されるのを前に、金沢駅前と香林坊アトリオ前で街頭キャンペーンを実施しました。このキャンペーンに身体障害者団体連合会、県手をつなぐ親の会、石家連が参加しました。石家連からは10名の会員と2名の障害のある人が参加しました。

昨年、あるところで体験を話す機会があり、話の中で、「姉が病気になった時から、親は私の親を辞めた」と発言した私がありました。自分で自分の言葉にビックリしました。

「私、ずっとそう思っていたのか……そうか。ずっと我慢していたのだ……」私が19歳のとき、姉は発病しました。我が家は一変しました。病気からくる姉の言語、行動に振り回され、病気を受け入れられない両親は、それに対応するのに精一杯で、ショックと落胆の日々を過ごしていました。私はそんな両親や姉が心配で心配で我を忘れて一生懸命、家族に触れ合っていました。というより、家族に振り回されていたのだと思います。

昨年、言葉に出してから、あの当時の自分の気持ちに気づき、私は、母に認めてもらいたかったのです。甘えたかったのです。助けてくれるネ…と励ましの言葉も欲しかったのです。私も人の親になり、親としてあの当時の両親の気持ちが痛い程わかります。大切な我が子が精神を病んでしまっ、他のことを考える余裕なんてなかったと思います。

このことがわかってから、自分の心の変化を感じています。人を見る目が心なしか優しくなったと思います。腹が立たなくなりました。

県外に住む娘からよく電話があります。またかと思う程、仕事のことや、日常生活の不満や愚痴をこぼし、スッキリして電話を切ります。まるで、私のそばに居て話し掛けているような話しぶりです。

ある時、ふと思いました。「自分のした事は自分に戻ってくる」とよく言われます。私も娘と同じようなことをしていたのではないかと……。

と……。

当時、話好きな私はきっと、母になんでも話していて、何でも話してくれる娘に母は安心して、自分のことを話していたのだと思います。このことに気づいてから、心が温くなり、母に対して長い間恨んでいてごめんなさい！という気持ちで一杯になりました。

家族会に参加するようになって、分かった事、感じている事があります。兄弟の人は、距離を置くか、巻き込まれるか。でも、そうするしかないんですよね！自分の立場や生活がありますから。しかし、親子関係だけでは、当事者の回復は難しいです。やはり、兄弟や第三者（医療関係者など）の力は絶対に必要です。親子関係は近すぎるから煩惱が先に立って、はかどらないと思います。

現在の姉は、一人暮らしを満喫しています。毎日、病院のデイケアに通い、休みの日には街に出かけ、絵画や骨董品の好きな姉は、21世紀美術館や県立美術館には、よく行っているみたいです。また、私と一緒に施設に入所している母に会いに行ったり、町内の班のゴミ当番もしっかりと果たしています。姉の手の回らないことは、私達家族がサポートしています。

私達にとっては当たり前の事ですが、今、家族会で課題になっている「親なき後…」のことを考えると、ここまでやれる事は当たり前じゃないのですよね！今、一人暮らしの姉と、程よい距離を保ちながら、日々暮らせることに感謝しています。ここまで来るのに、いろいろな事を経験させて貰いました。姉もよく頑張りました。経験したこと全てが今に繋がっているのだと思います。



家族が望むこと

泉の会 旗 春子

先週、看護学校の生徒さん70名ほどの方達に話す機会があり、障がいの息子や娘達のことを少しでも理解して欲しくて話して来ました。

息子は高3の2学期、不登校になりました。はじめは、本人、家族も病気とは思いませんでした。病院へ行っても病気ではないと言われました。でも、大學受験のための塾やコンピューター専門学校など、いろいろ行っても続きません。数年後、発病し、入院。3ヶ月後、病院が怖いと言って家に帰ってきました。

無気力な息子をみて、私は注意ばかりしていましたが、息子は黙りこんで殻に閉じこもるばかり。あんまり言うと自分の顔や頭を叩きつけ傷だらけ、瘤だらけになっていきます。私は息子は「しない」のではなく「できない」のだとやっと、気付きました。本人はしなくてはいけないことを百も承知しているのに、身体が動かないのです。

統合失調症は、まだ、科学的にはよく分かっていませんが、本人にとって耐え難いストレスを受け、脳内物質のバランスが悪くなり、障がいになっていると思われます。よく分からない病気ですから、世間からは、差別や偏見を受けていますが、結核やハンセン病が、そうだったように、原因が解明されればきっと、社会に受け入れられると思うのです。

実際、病気の人達は、落ち着いている時は心の優しい人がとても多いのです。真面

目で、気が小さく、神経の細やかな人達です。そのことを理解して頂き、誠心誠意その人と向き合って話を聞き、力になってくださる方がれば、立ち直る人も増えると思われれます。

私達家族は本当に高齢者が多くなり、家族だけで本人を支えるのが無理になってきました。就労の支援はよくありますが、生活の支援はあまりありません。これからは、本人の生活支援を充実し、自立した生活ができる様にしていかなければならないのではないのでしょうか。

私は、このことを看護をめざす学生さんに是非分かって欲しいと思いました。思いの半分も伝えられませんでした。学生さん達の感想文を後日頂き、思ったより真剣に聴いてくださったことを知り、感動しました。その気持ちを持ち続けて、看護に当たって欲しいと願っています。

私は20年間程家族会に係わってきましたが、当初から皆さんの心配は「自分が死んだらこの子はどうやって生きていくだろう」でした。

そして、この心配は今も同じです。20年少しも前進していないと思われれます。どうにかなるから心配するなと言う方もありますが、やはり、不安は残ります。何とかして自立できるような支援のしくみを欲しいと心底願う者です。



”JR等の交通運賃割引制度適用を”

金沢市武蔵が辻 名鉄エムザ前にて署名街頭キャンペーンを行いました



平成27年11月8日 13時～14時



○石家連はJR等の交通運賃を精神障害者も、身体障害者・知的障害者と同様に割引制度の適用対象にすることを求めています。

○日本は、平成26年2月より、国連障害者権利条約の締結国となりました。権利条約4条は「障害者に対する差別となる既存の法律、規則、習慣及び慣行を修正し、又は廃止するためのすべての適切な措置をとること」「この条約と両立しないいかなる行為、又は慣行も差し控えること。また、公の当局及び機関がこの条約に従って行動することを確保すること」と定めています。

○地域で生活するうえで、交通手段は必要不可欠なものです。行動範囲・生活領域の拡大に伴う交通費の負担軽減は切実な問題です。

○この様な願いを市民の皆様知って頂きたく、家族会員17名が、道行く人に署名をお願い致しました。また、署名のお願いと同時に、精神障害についての啓発も兼ねて「心の病気について」のリーフレットを配りました。



○キャンペーンに参加して

当日は、能登、加賀、金沢の会員が参加しました。精神障がい者に関心を持って貰える良い機会だったと思います。当初2時間の予定で始めましたが、1時間が丁度皆の体力に合ったところでした。



みんなねっとフォーラム 2015

演題「精神障がい者と家族～それぞれが自立し、ささえあうために～」

講師：白石弘巳 / 東洋大学ライフデザイン学部教授

開催日：2016年3月1日(火)

会場：帝京平成大学 沖永記念ホール

(石家連からは 竹林昭信、安達岩雄、旗 春子、紺谷徳子の4名が参加しました)

まず、精神疾患に由来する障がいの特性について理解することが必要です。精神疾患に由来する障がいは意欲と行動の不調和となって現れます。その結果、多くの人が能力はあるのに社会参加が不十分な状態に陥りがちとなり、また、二次的な生活・行動上の問題を抱え込むこととなります。しかし、疾患によって生じた障がいは医学的治療で治せなくても、二次的な問題を予防し、社会参加を実現することは十分可能と考えられます。

第二に、支援の方法について振り返りが必要です。すなわち、本人の希望と周囲の勧める対応策がしばしば一致しないことについて理解した上で対応を考えることが大切です。

望まれる支援の基本的な考え方は「よいコミュニケーションに根ざした良好な関係なくしてよりよい支援はあり得ない」です。支援を受ける方から言うと、「自立」している状況では、誰かと対話が成立し、困ったときに誰かに助けを求める能力があることが必要ということになります。しかし、実は、それこそ精神障がいを持つ人が多くの場合一番苦手としていることです。つまり、精神障がいをもつ人の支援では、もっとも困難な壁が支援の最初に立ちふさがっているのです。

わたしは、ご本人の希望 (Wish) を十分傾聴し、変えなければいけないことが多い人ほど「今のままで大丈夫」と言ってあげ、「今の状態でもかなえられる希望をかなえる」ことに力を尽くし、関係を絶やさないようにすることが大切と思っています。それが実現すれば、きっと本来必要なこと (need) をかなえる支援も少しずつ動き出すと信じています。その時、ご本人は自分らしく生きることを支援してくれる味方が、すでに周囲にたくさん存在していることを実感するでしょう。

結論

人生は、勝てないことが多いが、負けないで生きることにはできる。支援される人もする人も無理をする必要はない。人々が孤立せず、自分らしく生きられる支援の仕組みさえ利用できれば…(当日の資料集の1部を転記しました)

フォーラムに参加して

・どうしても納得して欲しい時、家族や支援者が強引に勧めるのではなく、時間を掛けて丁寧に説明を繰り返す。納得してくれたら感謝の意を表する。力づくでやるのではなく、言葉で説得する。『説得するにも、作法がある』という言葉に一陣の涼風を感じました。(k.k)

お知らせ



平成27年度



- 赤い羽根共同募金助成事業 から
家族相談事業 100,000 円
- ・相談とは双方の関係があって生まれる
相互支援 でもあります。
- 赤い羽根共同募金助成備品器具
購入事業から パソコン 1台
ありがとうございました。

☆第9回全国精神保健福祉家族大会 みんなねっと三重大会

月日：平成28年10月27日～28日

☆平成28年度北信越ブロック家族研修会 新潟大会

月日：平成28年10月5日～6日

編集後記

この1年、交通運賃割引制度の適用を願って皆頑張ってきました。協力して下さった方々の成果が実って、願いが実現する日が楽しみです (紺谷)